

福祉サービス第三者評価総合コメント

特に力を入れて取り組んでいること
理念と基本方針を職員間で共有し、保育計画や行事に反映している 理念や方針をエントランスに掲示し保護者にも周知し、職員にはハンドブックや重要事項説明書を通じて共有している。園内研修やクラス会議、行事企画会議を通じて理念に基づいた保育計画を職員間で話し合い、保育実践に活かしている。職員が迷った際には理念や方針に立ち返り、一貫性のある保育に結び付けている。職員全体が共通の理解を持ち、心の根っこを育む保育を実践する姿勢が見られており、園全体での保育の質向上と保護者との信頼関係の向上につながっている。
子どもが主体的に活動し、豊かな人間関係を育める環境の整備に力を入れている 園では、子どもが主体的に活動し、豊かな人間関係を育める環境の整備に力を入れている。クラスごとにコーナー遊びを充実させ、十分な遊びの空間を確保するとともに、落ち着けるコーナーや日々見直された環境で、子どもが自由に遊びを選び集中できる場を提供している。玩具や用具の配置には、子どもが自ら選びやすい工夫がなされ、絵本は表紙が見えるよう並べられ興味を引く環境になっている。さらに、幼児クラスでは遊びの継続性を重視し、作品コーナーを設置することで、翌日の遊びへの期待を促進している。また、乳児期には応答的な関わりを重視し、幼児期には友だちと遊びを通じて社会的ルールや協力の大切さを実体験で学べるよう支援している。役割を設けた当番活動や異年齢交流の実施を通じ、協力や思いやり、自信を育む取り組みが行われている。
家庭や関係機関との連携に力を入れ、子ども達の成長を支える取り組みが行われている 園では、家庭や関係機関との連携に力を入れ、子ども達の成長を支える取り組みが行われている。日々のコミュニケーションを通じて家庭との情報交換を行い、家庭と園が一体となった支援体制が構築されている。定期的な個別面談に加え、保護者の要望に応じた随時対応も行われ、その内容は記録に残されている。また、保育参観では普段の様子を動画で伝える工夫がされ、保護者が子どもの成長をより具体的に理解できる仕組みが整えられている。さらに、クラスごとの懇談会を年1回実施し、保護者同士や職員との情報交換が活発に行われている。
さらに取り組みが望まれるところ
重要課題の計画は策定されているが、評価方法の明確化を課題としたい 法人の理念や保育目標を基に年度ごとに重要課題を設定し、園の運営に関する企画会議で具体的な計画を策定している。この取り組みは運営の方向性を明確にする一助となっているが、事業計画とは別紙扱いのため、実施状況の評価がしにくい点が課題となっている。職員への周知は全体会議で口頭で行われているものの、計画内容や進捗状況を職員全体で共有しやすくするため、書面化や具体的な評価基準の設定が求められる。
利用者減少への長期的な対策や小学校接続カリキュラムの見直しが求められる 園では、地域の子育て支援に積極的に取り組んでおり、地域ニーズに応じた柔軟な対応が評価される。一方で、少子化による利用者減少への長期的な対策や、支援内容のさらなる充実が求められる。また、近隣小学校の統廃合が予定されている中、小学校接続カリキュラムの見直しが課題となっている。交流会や運動会の開催場所など、連携体制の維持に向けた具体策を3年間の準備期間内に検討する必要がある。このことから、小学校や地域と協力し、子どもが安心して就学に移行できる環境を整えることが期待される。
(評価を受けて、受審事業者の取り組み) 第三者評価を受審し、多面的に評価をしていただくことで日々の保育や運営の取り組みを振り返る大変貴重な機会となりました。まずは高く評価いただいたことは維持できるよう努めたいと思います。運営に関する短期・中長期計画については、進捗や具体的な評価基準を設けるよう改善し、園全体での質の向上を目指します。小学校接続に関しても、近隣の小学校や地域の皆様にご協力を仰ぎながら安心して就学を迎えられるよう計画的に取り組んでいきたいと思っています。